

42. こんにゃく

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
41+25	アグリマイシンー100	散布	収穫30日前まで	6回以内(但し、種いも浸漬は1回以内)	
M1	キノンドー水和剤40	散布	収穫30日前まで	8回以内	
-	クロールピクリン	土壌くん蒸	-	1回	
25	ストマイ液剤20	散布	収穫30日前まで	6回以内(但し、種いもへの処理は1回以内)	
1	トップジンM粉剤DL	種いも粉衣	植付前	1回	
M1	硫酸銅	ボルドー液を調製して均一に散布する	-	-	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	スミチオン乳剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照。）
- 注3) 使用回数は栽培期間内での回数であり、掘り上げない栽培の場合は、年をまたいだ収穫までの総使用回数なので、間違えないように注意する。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

散布時期	散布薬剤と薬量 (水1000当り)	10a当り 散布量	発生病害虫名 (太字は防除 重要病害虫)	注 意 事 項
植付直前	トップジンM粉剤DLを種いも10kg当り200g粉衣する。		乾腐病 根白	1. 粉衣は種いもの表面が乾燥した状態で行う。 2. 所定量の粉剤を種いもによく付着させるため、種いもを十分反転する。 3. 根腐病発生ほ場では、植付前にクロールピクリンで土壌消毒し、消毒いもを植える。本剤は乾腐病、白絹病および紋羽病に対しても効果がある。
7月上旬後	ストマイ液剤20 100mℓ	300ℓ	腐葉根	1. ストマイ液剤20にかえてアグリマイシンー100の1,000倍液を散布してもよい。 2. 葉柄および葉裏へ重点的に散布する。
7月中旬	4-4式ボルドー液 〔生石灰 400g〕 〔硫酸銅 400g〕	300ℓ	腐葉根	1. この時期以降、乾燥が続くと葉色が淡くなる亜鉛欠乏が発生しやすい。

散布時期	散布薬剤と薬量 (水 1000 当り)	10a 当り 散布量	発生病害虫名 (太字は防除 重要病虫害)	注 意 事 項
7 月 下 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	3000	腐 敗 病 葉 枯 病 根 腐 病	1. 日中高温時の散布は薬害発生のおそれがあるので、朝夕の気温の低いときに散布する。
8 月 上 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	3000	腐 敗 病 葉 白 絹 病 アブラムシ類 コガネムシ類	1. 日中高温時の散布は薬害発生のおそれがあるので、朝夕の気温の低いときに散布する。 2. 腐敗病り病株は抜き取って処分する。 3. アブラムシ類が発生した場合はスミチオン乳剤 1,000 倍液を散布する。
8 月 下 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	3500	腐 敗 病 葉 枯 病	1. この時期からボルドー液のかわりにキノンドー水和剤 40 の 600 倍液、ストマイ液剤 20、アグリマイシンー 1000 の 1,000 倍液のいずれかを散布してもよい。
9 月 上 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	3500	腐 敗 病 葉 枯 病	1. この時期から雨や強風直後に腐敗病、葉枯病が多発する。 2. 腐敗病の発生が多い場合は、次の防除までの間に追加で、ストマイ液剤 20、アグリマイシンー 1000 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。
9 月 中 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	3500	腐 敗 病 葉 枯 病	1. 腐敗病の発生が多い場合は、次の防除までの間に追加で、ストマイ液剤 20、アグリマイシンー 1000 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。ストマイ、アグリマイシンの散布は収穫 30 日前までとする。 2. 強風により茎葉に傷が生じた場合は直ちに散布する。
9 月 下 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	3500	腐 敗 病 葉 枯 病	1. 種いもは掘り取り後、予備乾燥を十分行い、無病いもを貯蔵する。

※キノンドー水和剤 40、クロールピクリン、硫酸銅（ボルドー）は魚毒に注意する。